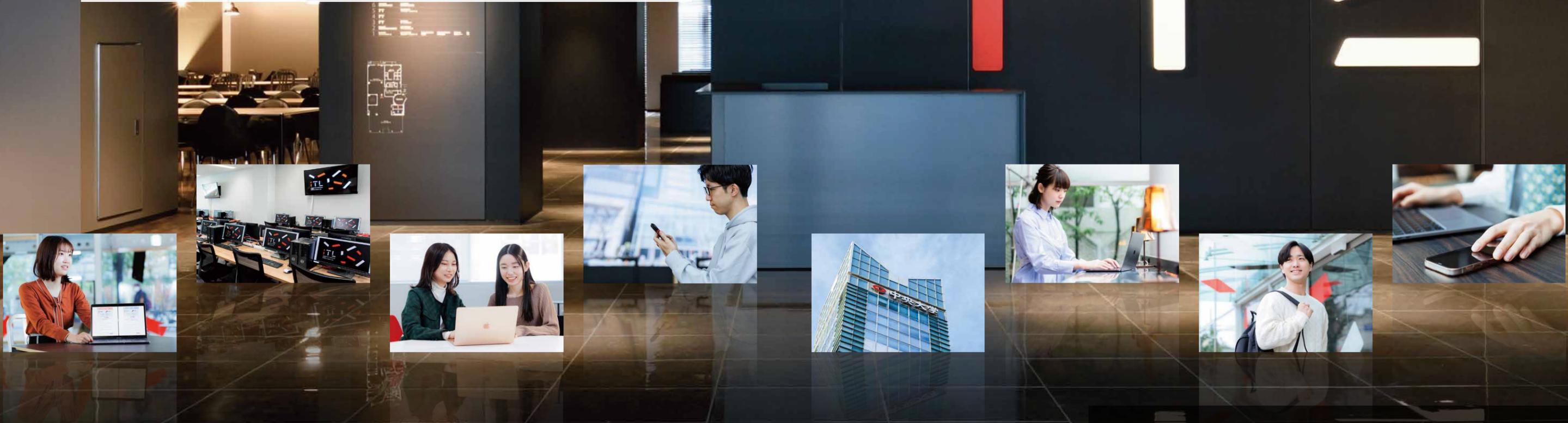


ACCESS

アクセスマップ

東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 (6番出口正面)
JR中央・総武線 市ヶ谷駅 徒歩5分
都営地下鉄新宿線 市ヶ谷駅 (1番出口) 徒歩5分



国際情報学部 iTL Webサイト



中央大学受験生ナビ Connect Web



国際情報学部

Faculty of Global Informatics

ITの世界にはまだ、ルールが足りない。

情報の
仕組み

情報の
法学

まだ確立されていない、
新しい分野を専門とする学部

iTLは、複雑かつ国際的に広がる情報社会の未来と、
課題解決のために、文系的思考、理系的思考の枠を超え、
それぞれの専門性を融合する学びにより、社会に受容される
情報サービスや情報政策を実現できる人材を養成します。

中央大学国際情報学部は「情報の仕組み」と「情報の法学」を融合した学部です。この「情報」と「法」の複合学部は日本において稀有な存在であり、そのような学部を表現するために「iTL」ということばを生み出しました。

“iTL” stands for “**I**nformation **T**echnology & **L**aw”

まさしく「情報の仕組み」と「情報の法学」の融合を指す言葉。情報技術の発展が生み出す大きな波そのものは、しばしばルールや倫理観を持たないもの。これを適切にコントロールし、社会に落とし込むには、法律、ヒトの知恵、教養、秩序が不可欠。

“iTL” stands for “**I**chigaya **T**amachi **L**ink”

市ヶ谷田町キャンパスは単なるキャンパスではなく、産・官・学をLinkさせる、産官学の拠点となる。そして、iTLに結集した叡智が情報社会を革新させるハブとなる。

“i” stands for “**i**dentify”, “**i**dea”, “**i**ntegration” and “**i**nnovation”

「独自性の強いこの学部で、学生・教員が生み出した新たな発想を統合し、革新を起こしていく」そんな学部であり続けることへの期待を込めている。



CONTENTS

- 03 iTLとは
- 04 情報と法のこれから
- 06 iTLの魅力 Q&A
- 08 カリキュラム
- 10 研究テーマ
- 12 STUDENTS' VOICE
- 16 資格試験／海外留学
- 18 奨学金制度
- 20 就職状況／内定先紹介
- 22 活躍する卒業生
- 24 専任教員紹介
- 28 施設紹介／アクセス
- 30 入試概要
- 31 学部長挨拶

ネットワークやAIの発達によって

さらに便利で豊かになろうとしている

私たちの生活。しかしその一方で

現実には起きている社会課題。



自動運転車の事故は誰の責任?

国内外でAIを搭載した自動運転車の実用化に向けた取り組みが進んでいますが、それらの中の一部では、事故の発生が報告されています。自動運転車の事故の責任は誰が取るのか。過失割合はどのように決定するのか。今後の法整備は必要不可欠です。



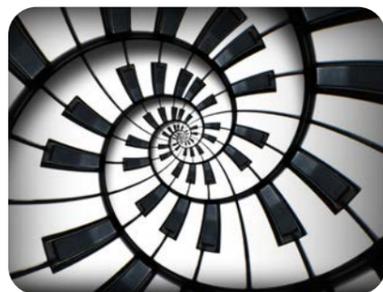
AIに人間の仕事が奪われる?

単純作業を自動化するAIの登場は、今ある職業を奪ってしまうのでしょうか。歴史を振り返ると、技術や機器の発達により消滅した職業もあります。一方で、新しく生まれる職業もあるはず。社会はAIとどのように付き合っていくことになるのか、私たちひとりひとりが考えなければなりません。



生命を脅かすサイバーテロ

悪意を持って他者が持つシステムに侵入し、破壊行為を行うハッキング。その悪意が、銀行や鉄道、発電所、医療機関などに向けられたら?ほとんどの機関の運営が情報システムに依存している中、これらの脅威への備えは万全でしょうか。



生成AIと著作権

大量のコンテンツを学習し、そこから文章や画像、動画などを出力する生成AI。一見すると独創性のあるものでも、著作権を侵害している場合があります。ビジネスシーンでも一般的な利用が進む生成AI。その仕組みや法律を理解しておく必要があります。



フェイクニュースが引き起こす混乱

あたかも真実かのように見える虚偽の情報、フェイクニュース。これにより人々の行動が大きく左右されることもあります。フェイクは文字情報に留まらず、画像や動画にも及んでいます。フェイクニュースに対して、私たちはどのような対策ができるでしょうか。



SNS上のトラブル

スマートフォンがあれば、自身の考えを匿名で容易に世界に発信できてしまいます。その匿名性と容易さゆえに、他者とのトラブルや権利の侵害を引き起こす事例も発生しています。表現の自由によって人が傷つけられることがあって良いのでしょうか。

情報の仕組み

現代社会は情報技術(IT)に支えられているといっても過言ではありません。私たちが使うパソコンやスマホといった情報機器はもちろんのこと、社会インフラの管理や交通・流通、金融など、様々な社会活動においてITが活用されています。コンピュータのプログラムはどのように動いているのか、ネットワークでどのような通信が行われるのか、昨今普及しているAIやIoTはどのような仕組みなのか、ITLでは、そのような「情報の仕組み」について基礎から応用まで学びます。ITの知識とスキルを身につけ、新しい情報サービスの実現について考えられる力を育みます。

情報の法学

情報技術は、私たちの生活をより便利なものに変える一方で、多くの解決すべき課題ももたらしてきました。簡単に迅速なコミュニケーションを可能にするSNSも、その使い方によっては、他人のプライバシーを侵害したり、名誉を傷つけたりしてしまう可能性もあります。今後のさらなる発展が期待されるAIも、個人情報の活用のあり方や、AIによって損害が生じた場合に誰が責任を負うのかといった課題を生じさせています。ITLでは、法の基本的な知識から、情報技術の発展とともに生じる様々な課題に法がどのように対処してきたのか、あるいは今後どのように対処していくべきなのかについてまで、幅広く「情報の法学」を学んでいきます。

「情報の仕組み」「情報の法学」「グローバル教養」の学び
それらの社会課題を解決に導くための



グローバル教養

ICTの急速な発達と普及は、この世界をグローバル化しました。グローバル化した社会で活躍するには、二つの能力が必要です。一つは言うまでもなく、実質的な世界共通言語である英語の運用能力です。英語力なしには、グローバル情報社会という土俵に上がることは困難でしょう。そしてもう一つが、異文化間の相互理解を可能にする教養です。社会では他者と協働する力が必要ですが、その他者が自身と同じ文化背景を持っているとは限りません。哲学、倫理学、宗教学に裏打ちされた異文化理解力が必要です。ITLでは、これら二つの能力を「グローバル教養」と位置づけ、国際人の養成を目指しています。

高度化・複雑化する情報社会において、新しい情報サービスの提供者あるいは情報政策の立案者となるには、「情報の仕組み」(情報で「できること」と「情報の法学」(情報で「やって良いこと」)の知識が必要不可欠です。さらに、グローバルなITの世界では、円滑な意思疎通のための「グローバル教養」も求められます。ITLでこれら3つの素養を身につければ、今まさに求められている人材として社会で活躍できるでしょう。

ITLの魅力はココ!

「ITLのここが気になる!」受験生の皆さんのそんな声に、ITLの学生4人がITLの魅力とともにお答えします。楽しそうだけど不安な大学生活。先輩たちも不安を抱えながら入学してきた学生です。先輩学生の様子を見て、ITLのイメージを膨らませてください。



Q 文系でPC初心者なので「情報」の授業についていけるか心配です

大丈夫! ITLの学生は**7割くらいが文系出身**。ITLは「**文系でも学べる情報学部**」がコンセプトだから、先生たちも、文系出身の学生が多いことを念頭に授業を進めてくれる。私も高校時代のPC経験はWordやPowerPointくらい。入学してからは自分のPCを持参して授業を受けるから、自然とPCスキルは上がって、今はもうPCは手放せない存在。

私は理系出身だけど、PCやプログラミングはやっぱり初心者で。**プログラミングの授業は少人数クラス**だから、先生にも気軽に質問できるし、友だちと助け合いながらスキルを身につけました。高校時代にプログラミングをやった人はごく僅か。**「情報」に関する知識はみんなゼロからのスタート**だから、心配しなくて大丈夫!



小暮 匠 3年
埼玉県立和光国際高等学校出身

プログラミング系サークルでの活動の傍ら、SNS営業のインターンシップでキーボードを叩く日々。冬はキーボードをスノーボードに持ち替えて、友人とともにニセコや白馬でスノーボードを磨く。



小林 莉緒 3年
東京都立国際高等学校出身

中学・高校はバスケ部。ポジションはフォワード。バスケサークルに所属し、今でも筋トレは欠かさない。現役バンドマンの母の影響で大学からギターを始め、軽音サークルにも所属。通学時間はわずか15分。



仁谷 安里 3年
私立立教女学院高等学校(東京都)出身

時間とお金があれば、国内外問わず旅行へ。次の渡航先として、国内は四国一周、国外はヨーロッパ周遊を画策中。代官山のイタリアンレストランでアルバイトをしていたが、好きな食べ物**はパスタではなくラーメン**。



華垣 恭 4年
私立開智高等学校(埼玉県)出身

初等・中等教育の現場が抱える課題解決に取り組むNPO法人に所属。趣味の映画鑑賞はサブスクよりも劇場派。シネコンよりも単館を好む本格派。新宿の単館での彼の目撃情報**が後を絶たない**。

Q 何で「情報学部」で「法律」を学ぶの?

私は実は元々法学部志望。でも「法律」だけでなく「情報」にも興味があって。そんなときに出会ったのがITL。「**情報**」と「**法律**」の両方を学べる学部はITLの他にはないんじゃないかな。「情報」の知識を身につけて、今は法律系のゼミで研究中。**法学部に行きたいと思っている人にもおすすめ!**

私も入学したときはそう思ったひとり(笑)。でも法律系の授業を受けていくうちに、「**情報**」を活用したサービスを世の中で展開するには、**どう考えても「法律」が不可欠**ことがわかった。卒業後は情報系企業に就職するけど、ITLで身につけた「**法律**」の知識や嗅覚は役立つはず。

私はゼミでAIの社会実装について研究しているけど、**無秩序なAI利用はやっぱり危険**。実際にニュースでもAIの危険性に関する事例や記事も目にするし。今ある「**法律**」はもちろん、**今後の「法律」や「AI」がどうあるべきか**という視点もITLなら養える!



Q キャンパス内や学生はどんな雰囲気?

1学年150人の少人数学部なのが特徴的かな。キャンパスに入れば、すぐに友だちに会えるし、友だちと授業が被ることもホントに多い。学生が少ないから、先生たちも学生のことをよく覚えていてくれていて、すごく質問もしやすい。

積極的な学生が多い印象。プログラミングのスキルを使ったアルバイトやインターンシップに一生懸命な人、資格試験の勉強を頑張っている人、ITLの中でサークルを立ち上げて運営に奔走している人。**熱意のベクトルは十人十色**で、そんな様子を見て私もすごく刺激を受けたな。

Q サークルはどうしてる?

ITLの中だと、プログラミングスキルを上げることを目標にしたサークルとか、海外の大学と交流をするサークルとかはよく聞ける。「AI」とか「eスポーツ」とか、ITLの学びにリンクした活動してるサークルもあるみたい。

私はITLの中の軽音サークルと後楽園キャンパスが拠点のバスケサークルに入ってる。軽音の方はITLの大学のステージも踏めたし、中学からやってるバスケも続けられて、すごく楽しい。ITLにはスポーツ系のサークルはあんまりないけど、他のキャンパスとか、他大学とのインカレサークルに入ってる人も多いな。

科目群	1年次		2年次		3・4年次		卒業に必要な単位数				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門科目群	情報基盤	◎国際情報概論 ◎基礎情報学 プログラミングのための数学 ◎インターネット概論 ◎情報フルエンシー	◎プログラミング基礎 統計学 データサイエンス基礎 ◎情報倫理	◎先端国際情報学 ◎情報理論 問題解決とアルゴリズム コンピュータアーキテクチャ 情報ネットワーク論 システム開発論 情報セキュリティ論	アプリケーション開発 OSとハードウェア リスクコミュニケーション 意思決定論 システムマネジメント	データベース論 システムとソフトウェア SNSとコミュニケーション 情報産業における人的資源管理論 ICTケーススタディ(ネットワーク構築) セキュリティマネジメント	データマイニングとAI	30単位			
	情報法	◎法学概論 ◎民事法(総則と情報契約法)	◎情報政策概論 ◎情報と憲法 ◎刑事法(概論) ◎情報法	国際規約と国際標準化団体 ◎民事法(情報不法行為法) 民事法(財産法総合) 知的財産法 国際法 ◎情報プライバシー権法 ◎AI・ロボット法 法情報学	情報政策ワークショップ ◎行政法(情報行政法) 情報通信法 民事法(債権法総合) 刑事法(サイバー犯罪の刑事規制) 法と経済学	ICTビジネスと公共政策 情報政策事例研究 競争法(情報競争法) 企業と情報法 国際私法 刑事法(サイバーセキュリティと刑事法) 情報判例研究A 情報判例研究B	情報と国家安全保障 著作権実務 消費者保護法 電子商取引法 刑事法(デジタル・フォレンジック) 法交渉学	30単位			
	関連科目	情報発展	学問最前線				学際最前線 イノベーションと技術 インターフェースデザインとユーザ体験 システムコンサルティング技法	情報戦略論 システム監査論	プロジェクトマネジメント 技術戦略論 DX戦略	デジタルブランディング ITILとサービスマネジメント ICTケーススタディ (セキュリティインシデント)	8単位
		情報実践		メディア論 ジャーナリズム論 映像制作基礎	Practical English for Informatics English for Current Topics 情報社会学Ⅰ ドキュメンタリー論 特殊講義(eスポーツ)	Technical Writing 情報社会学Ⅱ	デジタルメディアとコンテンツ 情報サービスとゲーミフィケーション 金融情報システム論 情報教育論 ICTケーススタディ(パケットキャプチャ)	特殊講義 (クラウドコンピューティング) 特殊講義 (パブリックスピーキングと自己表現)	広告論 パブリックコミュニケーション ネットビジネスとマネタイズ 情報と言語	情報とガバナンス ブロックチェーンとWeb3 特殊講義(情報通信とDX) 特殊講義(デジタルパブリッシング)	8単位
演習科目群	◎基礎演習			国際情報演習Ⅰ	国際情報演習Ⅱ 国際情報演習Ⅳ 特定課題研究Ⅰ	国際情報演習Ⅲ 国際情報演習Ⅴ	卒業研究 特定課題研究Ⅱ	2単位			
グローバル・教養科目群	グローバル	◎論理学Ⅰ 情報と国際コミュニケーション	◎論理学Ⅱ 宗教学	哲学Ⅰ 国際関係論 情報社会と社会的包摂	哲学Ⅱ 国際文化論 比較文明論 ダイバシティ論	日本文化論 異文化間コミュニケーション論	宗教とメディア インターネット文化とサブカルチャー 各国ICT事情	16単位			
		◎統合英語Ⅰ	◎統合英語Ⅱ	◎情報英語Ⅰ	◎情報英語Ⅱ						
	1・2・3・4年次 前期		1・2・3・4年次 後期								
	ICT留学	アカデミックイングリッシュⅠ	ビジネスイングリッシュⅠ	国際ICTインターンシップ	アカデミックイングリッシュⅡ	ビジネスイングリッシュⅡ					
教養	1・2・3・4年次 前期		1・2・3・4年次 後期				8単位				
	政治学	心理学	環境科学	歴史学	生命科学	ミクロ経済学		マクロ経済学	文学	健康・スポーツ	社会学

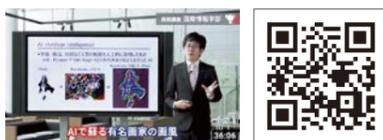
◎は必修科目です。「卒業研究」は4単位、それ以外の科目は2単位です。

※2024年度の内容です。科目や開講学期については変更される場合があります。

WEBで公開中! いますぐチェック!  国際情報学部模擬授業

「AI、IoT、データサイエンスが拓く未来」

私たちの生活には情報技術を使ったサービス・製品が溢れています。今や誰もが「情報の仕組み」を学ばなければならない時代です。情報技術がどのように社会に変革をもたらしているのか解説します。



「ブロックチェーンの技術」

「ブロックチェーン」はルパンの風船?元のデータから要約データを特殊な計算によって導く「ハッシュ」とともに、「ブロックチェーン」の仕組みを解説していきます。



「デジタル情報と法律」

CGが発達した今、写真がネット上で実在の証拠になるのでしょうか。法律も情報技術に追いつかなければなりません。ITLの「情報の法学」の一端をご覧ください。



 ゲストスピーカー

iTLの授業では、大学の教員だけでなく、各分野の最前線で活躍する実務家の方々がゲストスピーカーとして積極的に招へいしています。企業や官公庁で働く方々のお話を聞けるので、そこで吸収した知識は就職活動にも役立ちます。

[過去の招へい実績]

日本マイクロソフト/トヨタ自動車/アマゾンウェブサービスジャパン/メルカリ/カカコム/NTTデータ/楽天モバイル/Zホールディングス/アクセンチュア/博報堂DYホールディングス/野村総合研究所/三菱総合研究所/情報通信総合研究所/日本放送協会/総務省/文部科学省/横浜市役所/警視庁 等



Theme 1
ネットニュースの見出しと本文の要素分析
 遠藤 颯 3年
 私立中央大学高等学校(東京都)出身



Theme 2
生成系AIと人間が作成した文章の読者認識の違い
 仁谷 安里 3年
 私立立教女学院高等学校(東京都)出身



Theme 3
生成系AIを利用した著作物の取扱いの各国比較
 栗原 瑠菜 3年
 埼玉県立浦和第一女子高等学校出身



Theme 5
教育データの利活用におけるプライバシー上の課題
 藪原 志織 3年
 私立東京女子学園高等学校(東京都)出身



Theme 4
アバターの人格権侵害における法解釈と新たな権利の検討
 金子 友貴 3年
 私立淑徳高等学校(東京都)出身



Theme 6
英語学習における画像生成AIの応用と効果測定
 横川 恭士 3年
 私立駒込高等学校(東京都)出身



Theme 7
SNSを活用したインフルエンサーマーケティング
 鍋島 双葉 3年
 私立中央大学附属横浜高等学校(神奈川県)出身



Theme 8
アニメキャラの性格設定における血液型ステレオタイプ
 山中 媛乃 3年
 千葉県立葉園台高等学校出身

- Others Theme*
- SNSにおけるトレンドの勢い分析
 - フェイクニュース規制のあり方
 - 企業Webデザインに関する日米比較
 - 画像認識による現在の地の割り出し
 - タスク管理アプリケーションの開発 など

REPORT 全ゼミが集まる合同発表を実施

2023年11月29日、3年次後期「国際情報演習III」を履修している学生による「国際情報演習III合同発表会」が国際情報学部市ヶ谷町キャンパスにおいて開催されました。本発表会の狙いは、異なる分野のテーマを扱う他のゼミの研究内容を相互に学び、自身の研究に生かすこと。全20ゼミは2つのグループに分かれ、それぞれ大教室で学修・研究の成果を発表し、質疑応答では教員および学生からさまざまな意見や感想の声があがりました。この貴重なアウトプットの場を通して自身の

研究に対するモチベーションを高めた学生たちは、今回の発表会で得た示唆をその後の学修・研究活動に生かしていくこととなります。なお、国際情報学部では、2年次後期から「国際情報演習」を履修することができます。「国際情報演習」は、1年次から積み上げてきた「情報の仕組み」「情報の法学」「グローバル教養」の理論をもとに、ゼミ内あるいはゼミの垣根を越えて議論や実習を重ねることで、より社会との接続性の強い実践的な知識の吸収やその成果をアウトプットすることを目的とした科目



です。「卒業研究」で、研究成果を論文やアプリケーションプログラム、情報サービス、デジタルコンテンツなどにまとめ上げるためには、この「国際情報演習」で培う学問的な知見が土台となります。



「情報」をシステムの観点と
法的な観点から眺められる
多角的な視野が最大の武器。

VOICE 01

小塚 わこ 4年
私立札幌大谷高等学校(北海道)出身

内定 りそなグループ



数学、留学、ボランティア。
未知との遭遇ばかりの4年間を経て
自分の進むべき道が明確に。

VOICE 02

花岡 桃可 4年
私立光塩女子学院高等科(東京都)出身

進学 東京大学大学院情報学環・
学際情報学府

iTLに入学しようと思ったのは、なぜ？

高校生の頃は情報系の知識やツールに疎く、SNSで友だちとのやりとりを楽しむ程度でしたが、ある日、当時好きだった韓国のアイドルがネットの誹謗中傷のせいで亡くなってしまった事件が起こったんです。ネットにはこんな負の面があるのかと衝撃を受け、情報や法律について深く学びたくてiTLへ。入学後は「ネットワークとは何か」を知ることから始め、少しずつ「情報の仕組み」を理解していきました。もちろんプログラミングの知識もゼロでしたから、1年生の後期にプログラミングの基礎を習ったときは、わからないことがあるたび先生に質問して、指導していただいて。そうしているうちに、それまではネットサービスを“使う”側でしかなかった自分に、ネットサービスを“つくる”側の視点が備わっていくのを実感するようになりました。

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

情報と法律の知識を両方深めたくて、情報通信法のゼミを選びました。サークルには入っていない

ので、息抜きは友だちと遊ぶことです。ただ、遊ぶといっても「一緒に課題をやろう」と、結局は勉強してしまいがちなんですが(笑)。iTLにはそういうタイプの子が多いので、学ぶには恵まれた環境だと思います。最近は友だちとの時間を卒業論文に費やすことが多いですね。卒業論文のテーマは「発信者情報開示請求のプロバイダの保有情報について」。ネットで匿名のユーザーから誹謗中傷などの被害を受けた場合、被害者はプロバイダに対して発信者情報の開示を請求して投稿者を特定することができますが、その手続きを踏んでも相手を特定できないケースもあります。その場合、どのように対処すべきなのか、どうすれば被害者を救済できるのか。ずっと研究してきたことの集大成のような卒業論文にしたいです。

今後の目標、将来の夢は？

就職先はりそなグループに内定をいただいています。人びとの生活をマイナスからゼロにするために必要なのが「インフラ」で、ゼロからプラスにするために必要なのが「嗜好品」だと考えたとき、どちらかではなく両方に携わる

仕事に就きたかった。私にとっては、そのマイナスからプラスまでをまるっとカバーする業界のひとつが金融業界だったんです。りそなグループでは、誰にとっても使いやすく、家族や友人の手にまで届くようなアプリやサービスをつくりたい。それが当面の目標です。

ONE DAY SCHEDULE

- 08:00 起床
- 09:30 カフェで卒業論文執筆
- 12:00 友人と昼食
- 13:20 授業
- 16:00 リモートでアルバイト
- 21:00 課題・フリータイム
- 24:00 就寝

印象に残っている授業はある？

たくさんありますが、いちばん印象深いのは1年次に受けた「プログラミングのための数学」です。高校で文系だった自分には縁のなかった数IIIなどを学べる授業で、先生の教え方がおもしろかったのと、当時はコロナ禍で自主学習する時間がたっぷりあったことも相まって、理系の人たちがよく言う「数学の美しさ」や「証明することの奥深さ」がなんとなくわかるようになったんです。おかげで大学では情報系の科目により興味を持つようになり、学びを深めることができました。

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

3年次にアメリカのテネシー工科大学に約半年間留学した経験がその後の学生生活に大きく影響したと思っています。語学に苦労したとか、たくさん勉強したのはもちろんのこと、アメリカの学生は「自分は〇〇になりたい」「〇〇をして生きていく」と明確な目標を持ちながら大学生活を送る人が多くて、その姿勢に刺激を受けました。当時、日本では「データ

に基づく人の行動分析」などをテーマにしたゼミに所属していたものの、自分の具体的な研究テーマは決まっておらず、先生に与えてもらうことが多かったんですね。留学をきっかけに自分は何がやりたいのかを改めて考え、思い至ったのが社会問題の解決です。2年次に大学主催のボランティア活動で土砂災害の被災地に赴いたこともあったので、防災に寄与する研究がしたいと思うようになりました。その延長で、いまは人の防災リテラシーや自助による防災活動が災害時の避難行動にどう影響するのかを分析しています。

今後の目標、将来の夢は？

ゼミの話の中で挙げた人の防災リテラシーや自助による防災活動はあくまでも個人レベルのことなので、大学院では対象を地域・コミュニティレベルに発展させていきたいです。具体的には共助による防災活動や「ソーシャル・キャピタル」と呼ばれる地域の人びとのつながりが、災害時の避難行動の意思決定やその後の復興にどう影響しているのかを分析したいと思っています。将来的には大学や

大学院で研究してきたことを活かし、公的機関や民間企業を問わず政策立案に携われるような仕事に就くのが現時点での夢ですね。災害問題だけでなく、さまざまな社会問題を解決し、世の中をより良くするお手伝いのできればうれしいです。

ONE DAY SCHEDULE

- 07:30 起床
- 09:00 大学院入試勉強、研究室訪問
- 14:00 ゼミメンバーとゼミの準備
- 15:00 ゼミ
- 17:00 ゼミメンバーとゼミの振り返り
- 19:00 塾講師アルバイト
- 22:00 大学院入試勉強
- 24:00 就寝



支えるエンジニアになりたい。
フルに活用して、ITインフラを
授業や課外活動で得た知識を

VOICE 03
小林 莉緒 3年
東京都立国際高等学校出身



SF小説や映画を引き合いに
AIの危険性と可能性について学ぶ
刺激的な授業の虜に。

VOICE 04
仲澤 愛基 2年
私立中央大学附属高等学校(東京都)出身

印象に残っている授業はある？

「ICTビジネスと公共政策」という、最先端の情報通信技術を用いたビジネスを展開する企業が、法規制やルールメイキングにどのように向き合っているのかを学ぶ授業です。著名なスタートアップ企業や行政機関の講師がリアルな現場の声を聞かせてくれるのが興味深くて。さらに、講師の方々がその場で学生からの質問に答えてくれたりする双方向型のスタイルも魅力的で、どの回もとてもワクワクしました。それまで情報系の勉強ばかりしていたのですが、授業をきっかけに「情報の法学」にも関心を寄せるようになりました。

TIME TABLE

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1限						情報社会と社会的包摂
2限	情報と国家安全保障	刑事法 (サイバーセキュリティと刑事法)				ダイバーシティ論
3限			データベース論		システム監査論	
4限	情報戦略論	システムとソフトウェア			国際情報演習	
5限		クラウドコンピューティング			ICTビジネスと公共政策	

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

プログラミングスクールを運営する会社で長期インターンシップをしているうちにIT教育に興味を持つようになり、ゼミはスマート教育を研究できるゼミを選びました。そのほかに思い出深い課外活動はサークルで、軽音サークルとバスケットボールサークル、それからテクノロジーに関心のある学生向けコミュニティに参加して、SDGsを学ぶビンゴゲームのアプリを開発しています。

今後の目標、将来の夢は？

大学卒業後はIT業界に入り、長期インターン

シップで培ったプログラミングの技術を活かしてシステムエンジニアになりたいと考えています。その先にあるより大きな目標は社会貢献。iTLの授業やゼミで得た経験や知識も総動員し、人びとの生活に欠かせない情報インフラを支えるようなエンジニアをめざすつもりです。

ONE DAY SCHEDULE

- 07:30 起床
- 09:00 授業
- 12:00 友人とランチ
- 13:00 オンラインでインターンシップ
- 16:00 就職活動
- 19:30 バスケットボールサークル
- 23:00 課題
- 24:00 就寝

iTLに入学しようと思ったのは、なぜ？

IT業界でシステムエンジニアとして働く父親の影響で、高校生の頃からITに興味がありました。自分も大学では情報技術について学びたいと思っていたところ、父が「こんな学部があるよ」とiTLの存在を教えてくれたんです。ここでなら希望通りの勉強ができそうだと感じて入学を決めました。

印象に残っている授業はある？

2年次の前期に受けた「AI・ロボット法」です。AI技術が近い未来にもたらしうるさまざまな問題について、SF映画や小説などで描かれる

TIME TABLE

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1限						情報社会と社会的包摂
2限	情報理論	法情報学	情報英語		政治学	
3限		民事法 (情報不法行為法)			情報プライバシー権法	
4限		AI・ロボット法			国際規約と国際標準化団体	
5限					情報社会学	

ケースも事例に議論するのが楽しくて、ゼミもその授業を担当する先生のゼミを選びました。いまはまだ2年生なので具体的な研究テーマは決まっていますが、授業で知ったジョージ・オーウェルの小説『一九八四年』に描かれる監視社会のように、これから現実社会でも顕在化してくるであろうAIの危険性について研究していきたいと思っています。

ゼミやサークルなど、授業以外の活動は？

2023年の大学祭の実行委員会の委員長を務めました。2年生の僕は学祭運営の経験がなくノウハウをまったく知らなかったため、ゼロから委員会の組織づくりをしたり、委員会の

メンバーたちと運営方法を模索したり、苦勞の連続でしたが、結果的に学祭は大成功に終わりました。何より、普段関わることのない1年生や3年生、大学祭に足を運んでくださる来場者の方々と触れ合うことができ、その経験は大きな財産になったと思っています。

ONE DAY SCHEDULE

- 05:30 起床
- 06:00 資格勉強
- 11:00 大学祭実行委員会資料作成
- 13:20 授業
- 15:10 大学祭実行委員会会議
- 21:00 資格勉強
- 22:00 読書
- 23:00 就寝

IT業界をめざす人にはおすすめの 3つの情報処理系の国家資格を取得!

経済産業省が認定するIT系の国家資格のうち、とりわけメジャーなものは「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」「応用情報技術者試験」の3つ。なかでも初級レベルとされるITパスポート試験を受けたきっかけは、1年次の必修科目「基礎情報学」でした。授業を担当する岡嶋裕史先生は資格の合格教本の著者でもあるので、授業でITパスポート試験に出る基礎知識にもれなく触れてくれるんですね。実際に試験を受けて、授業の内容が大いに役立ったと実感しました。おかげで、ITパスポート試験と基本情報技術者試験には難なく合格。手強かったのは2年次に受けた応用情報技術者試験です。高度IT人材をめざす人が対象の試験なので難易度が高く、合格率は約20%。1人で挑むのは心細かったので、大学の友人2人と一緒に勉強して受験した結果、なんと僕だけが不合格になってしまった。かなり落ち込みましたが、その次の試験で無事に合格することができました。なぜそこまでして資格取得に取り組んだかという、



富島 悠介 4年
私立中央大学杉並高等学校(東京都)出身
内定 アクセンチュア株式会社

将来のキャリアのためです。IT企業の多くが内定者に入社までの基本情報技術者資格習得を推奨していますし、僕もインターン先で「応用情報技術者を持つてんだ」と一目置いてもらえました。だから個人的には自由に使える時間がある学生のうちに資格を取得すべきだと考えていますが、資格を得ること自体が目的にはいきません。重要なのは資格そのものではなく、試験に合格するまでの過程で得た知識です。その高度な知識やアウトプットが、IT人材として社会で活躍するための大きな武器になる。企業もそのポテンシャルの高さを評価してくれているのだと思います。



iTLではさまざまなキャリア・スキルフレームワークで資格取得をしっかりとサポートします。また、iTLでの学びにより「基本情報技術者試験」と「情報処理安全確保支援士試験」の一部が免除されます。

岡嶋 裕史 教授



技術者の能力評価
(共通キャリア・スキルフレームワーク)



【基本情報技術者試験の科目A試験の免除】
「基礎情報学」、「インターネット概論」の2つの必修科目の単位を取得し、かつ、学内で実施する試験に合格することで、国家試験の登壇門資格である基本情報技術者試験(CCSFレベル2)の科目A試験が免除されます。

【情報処理安全確保支援士試験午前II試験の免除】
「情報ネットワーク論」、「情報セキュリティ論」、「システム開発論」の3つの科目の単位を取得し、かつ、iTLを卒業することで、国家試験のハイレベル資格である情報処理安全確保支援士試験(CCSFレベル4)の午前II試験が免除されます。

長期留学

交換留学

本学の協定校(40以上の国・地域)に学生を選抜し派遣。原則、留学中に修得した単位は本学の卒業単位として認め、4年間での卒業も可能。留学先大学の学費は原則として免除されます。

認定留学

協定校以外で、本学が認めた外国の大学・機関に留学。交換留学同様に4年間での卒業も可能。留学先大学の学費は納入する必要がありますが、学費減免や奨学金の給付を受けることができます。



佐川 峻太郎 3年
私立都立文館グローバル高等学校(東京都)出身

Study Abroad Report

最高の留学生活がもたらした意外な進路

アメリカのミネソタ州立大学で、広告戦略などメディア系の科目を中心に学びました。PR先進国の大学の授業は何もかもが新鮮で刺激的で、たとえば企業が社会的責任を果たしていることをアピールするための手段をグループで考えたり。お題が興味深いのはもちろん、毎回グループワークがあって、アクティブに学習できるのがおもしろかったですね。留学は二度目なので英語には苦労しませんでした。前回の留学生生活を勉強に全振りしたことに後悔があり、今回はそれ以外の時間も大切にしました。私はバスケが好きなので、体育館に通って友だちをつくって。チームで大会に出て、準決勝の手前まで勝ち進んだのは最高の思い出です。卒業後は現地で就職する選択肢が頭をよぎったこともありますが、留学によってグローバル志向が高まった一方で、自分は日本人だと強く意識するようになって。だから理想は、グローバルに事業を展開する日本企業。新人もどんどん海外に出して、くれる会社をメインに、留学前はまったく興味のなかった商社やメーカーが気になっています。

短期留学(国際情報学部設置科目)

国際ICTインターンシップ

約2週間、長期休暇期間中にシリコンバレーに拠点を置く大学やICT企業を訪問し、グローバルに展開される情報サービスの最前線を体験することができます。

ICT留学

約4週間、大学の長期休暇期間中にオーストラリアの大学の講義を受けながら、現地の企業・機関を訪問します。英語力の向上はもちろんのこと、現地の産業について理解を深めることができます。

Internship Report

英語スキル向上と留学が切り拓く新たな可能性

4年生の夏、オーストラリアのクイーンズランド工科大学(QUT)の講義を受けながら地元企業や機関を訪問する「ICT留学」プログラムに参加。現地では、平日午前のみっちり英語のクラス。スピーキングがメインで、年代も国籍も異なる人とディスカッションやプレゼンテーションを重ね、スピーキング能力は驚くほど向上しました。帰国後も英語のラジオ・ドラマでリスニングの練習をしたり、留学で学んだ英単語・熟語を振り返ったりと英語学習へのモチベーションを保っています。QUTでの特別講義では、iTLで学んでいた日本のIT政策や法律、活用方法がオーストラリアでは異なることを知りました。教育面ではブリスベンの方が、交通機関においては日本の方がIT化が進んでいると感じ、国や地域によるIT進捗の差にも気づけました。価値観が異なる多くの人と出会い、新たな視点を獲得することができました。卒業後は日系企業に就職しますが、いつか海外で働いてみたいという思いも芽生えました。



上原 志織 4年
私立沖縄尚学高等学校(沖縄県)出身

内定 株式会社野村総合研究所

iTL 先端的プロジェクト奨学金(学長賞・学部長賞給付奨学金)

国際情報学部では、国際社会が抱える情報の諸課題を多角的に分析・解明した上で、その問題の解決策を論理的に構築し、国際社会に受容される情報サービス・政策を実現できる人材の養成を目指しています。その理念を体現する研究を計画する学生に、研究を促進するための奨学金を支給しています。奨学金の支給を受けた学生は、アプリケーション・ソフトウェアの開発や遠方での調査のための費用等、研究に必要な経費に充てて、充実した研究活動を行っています。



小久保 凜 4年 大阪教育大学附属高等学校池田校舎(大阪府)出身

株式会社野村総合研究所

個人情報保護意識の向上を目的とした対戦型シリアスゲームの開発

人々の個人情報に対する意識を調査し、リテラシー教育を行うという目的で研究チームで開発した対戦型オンラインゲーム。プレイヤーは個人情報を「提供する側」と「悪用する側」に分かれて対話しながらお互いの持つカードを公開していき、最終的に残るカードの合計点数で勝敗が決まります。対話方法は人々による対話、人とChatGPTによるテキスト対話、人と人によるテキスト対話の3パターンを用意。対戦結果とともに豆知識として個人情報に関する犯罪事例などを紹介し、プレイヤーに注意喚起をおこないます。学生にプレイしてもらったところ評判は上々。ポルトガルで開かれた学会で発表した際には複数国の出席者から「英語版もつくってほしい」とリクエストをいただきました。



小暮 匠 3年 埼玉県立和光国際高等学校出身

リーガルテックと弁護士法72条

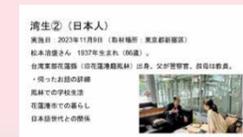
リーガルテックとは、法律に関する業務にAIなどのIT技術を活用し、業務を効率化するサービスのことで。成長著しい分野である一方、契約書内容のチェックをAIに任せる行為は、非弁護士による法律事務の取扱いを禁じる弁護士法72条に抵触するのではないかと指摘されています。この問題をテーマにした研究成果を学会で発表したことがあり、それをさらに深める目的で奨学金を申請しました。今回の研究には2つの軸があり、1つは訴訟大国である米国の判例も参照すること。もう1つは昨今話題の生成AIが契約書をチェックした場合の評価でしたが、これについては最近、法務省が見解を出したのでそれを読み込んで理解を深めています。いまは米国におけるリーガルテックの扱いに集中して、全州の判例を調べているところです。



川原 美緒 3年 東京都立武蔵野北高等学校出身

台湾統治と日本人

私の祖母は、日本統治下の台湾で生まれて戦後に日本へ引き揚げた日本人——いわゆる「湾生」でした。祖母が台湾でどう暮らしていたのか、当時の台湾はどんな場所だったのか調査したい。この奨学金を活用して、台湾へ行って現地の方々に取材しました。取材して感じたのは、台湾の日本への愛です。若い人たちだけでなく、日本の統治を経験したご年配の方も「あの時代は良かった」「楽しかった」と口々に言ってくれることに驚きました。みなさん日本語が流暢で、祖母の戸籍が残っていないか役所に問い合わせた際も、日本語で「台湾のことを調べてくださってありがとうございます、うれしいです」と返事があって。そんな、自分の目で見聞きした台湾の姿をルポルタージュにまとめるほか、ドキュメンタリー映像もつくる予定です。



田畑 美徳 3年 神奈川県立麻溝台高等学校出身

あしたよなあ —不時着した特攻隊員—

もともと歴史が好きで、ゼミでは歴史に関する制作をしたいと思っていたところ、戦時中、海に不時着した特攻隊員の再出撃を支援した中央大学OBがいたことを先生に教えてもらって興味を持ち、不時着した特攻隊員をテーマにドキュメンタリーをつくらうと決意。中央大学OBと関わりのあった安部正也さんという特攻隊員に注目し、彼が不時着した鹿児島県の黒島へ取材に行きました。島では不時着した特攻隊員が手厚く保護され、いまも毎年5月に黒島特攻平和祈念祭という慰霊祭が開催されています。慰霊祭では、鹿児島の高校生たちによる、特攻隊員と島の人の交流を描く演劇が上演され、高校生たちにも話を聞きました。このドキュメンタリーを通じて特攻の実態を若い世代に語り継ぐことができれば。そんな思いで制作をつけています。



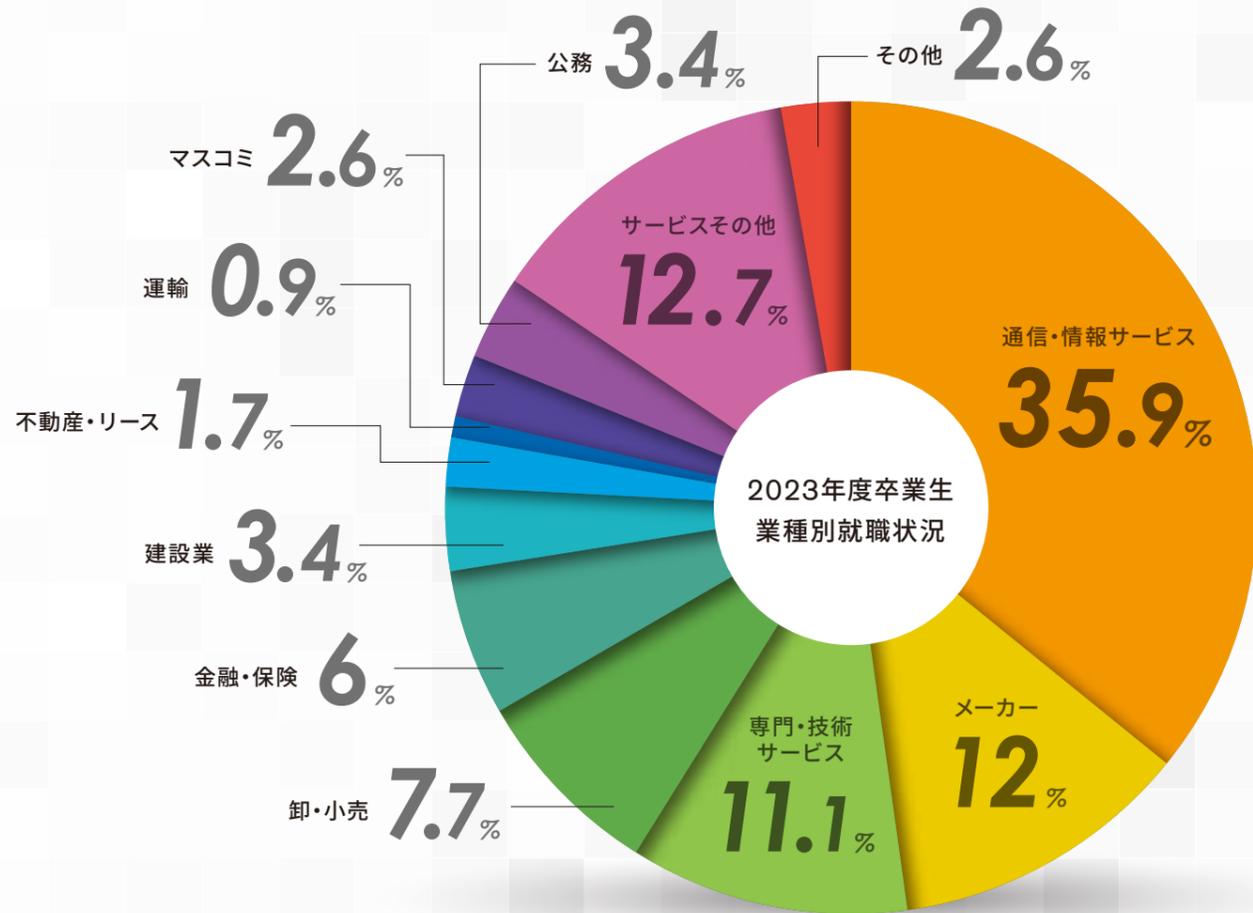
「ICT留学」給付奨学金 / 「国際ICTインターンシップ」給付奨学金

国際情報学部では、短期の留学系科目として「ICT留学」と「国際ICTインターンシップ」を正課の科目として開講しています(17ページ参照)。各科目の履修を希望する学生のうち、学部が指定する出願資格を満たし、かつ、各科目の履修により更なる飛躍が期待できる学生には、奨学金を支給しています。2023年度も本奨学金の支給を受けて、多くの学生が、海外に旅立ちました。

iTL 給付奨学金

国際情報学部の教育課程と親和性の高い資格試験、例えば、応用情報技術者試験や高度情報処理技術者試験(16ページ参照)、司法試験や弁理士試験、国家公務員総合職試験等に合格した学生、学会や各種コンテスト等において優秀と認められる成果を出した学生に、奨学金を支給しています。国際情報学部は、様々な資格試験に挑戦する学生を応援します。授業や課外学習でインプットした知識は、どんどんアウトプットしてください。

iTLの学生の進路として最も多い業界は、情報系学部らしく、「通信・情報サービス」。
学生に人気のITコンサルティング企業を含む「専門・技術サービス」が多いのも特徴です。



【卒業生の主な内定先】

アクセント/日本オラクル/BIPROGY/野村総合研究所/ペイカレントコンサルティング/日本総合研究所/みずほリサーチ&テクノロジーズ/日本タタ・コンサルタンシー・サービス/NTTドコモ/KDDI/楽天/リクルート/日本アイ・ピー・エム/SCSK/NEC/ヤフー/キャノンマーケティングジャパン/ANAシステムズ/トッパンエッジ/Sansan/トヨコム/ラック/富士フイルムビジネスソリューションジャパン/リコージャパン/パーソルホールディングス/カブコン/MIXI/ボラス/ユニ・チャーム/アサヒビール/日本食研/レバレジーズ/エン・ジャパン/JTB/日産自動車/日立製作所/大成建設/三井住友銀行/三井住友信託銀行/三菱UFJ信託銀行/みずほ証券/JAL/四国旅客鉄道/NHK/共同通信社/地方公共団体情報システム機構/総務省/文部科学省/東京都庁/横浜市役所/札幌市役所/東京国税局/等

🏫 大学院進学も後押しします

卒業後の進路は就職だけではありません。中央大学大学院国際情報研究科をはじめ、国内外の大学院に進路を決めている先輩たちもいます。在学時の成績が優秀な学生は、学部を3年間で卒業できる「早期卒業制度」の利用や大学院国際情報研究科の筆記試験を免除した「特別選考入学試験」の受験が可能です。

Webにて特設ページ公開中!

いますぐCHECK!

📖 就職・進学(内定者の声)

学生それぞれの入学前の思い、入学後の学びや課外活動・就職活動の様子、受験生へのメッセージをご覧ください。



■ 華垣 恭 4年 私立開智高等学校(埼玉県)出身

iTLで身につけた情報技術の素養と インターンの経験が評価され通信大手に内定

VR技術で仮想空間に誕生した、バーチャルな渋谷の街。渋谷区公認のプロジェクト「バーチャル渋谷」の存在を知ってワクワクすると同時に、プロジェクトを運営するKDDIに興味を持ち、インターンに応募しました。念願叶ってインターンに参加しましたが、実際に参加して驚いたのは、KDDIは自由な発想のおもしろいプロジェクトを多数手がける企業ながら、それを支える社員のみなさんはお客さま第一の姿勢を貫き真摯に仕事に取り組んでいること。半年間、フロントSEの見習いとしてお客さまとの商談に同席したり、社内SEにお客さまの要望を伝える経験は本当に刺激的で、KDDIで働きたいという思いが強くなっていきました。その後、無事に内定を得ましたが、もともと情報系の知識が浅かった私がKDDIのような通信会社に入れたのは、iTLで身につけた情報系の素養があったから。今後は自分もKDDIの一員として、お客さまの成長を支えていきたいです。

やりたい仕事をしながら、勉強もしたい 理想の働き方を実現すべくIBMへ

高校では理系のクラスに在籍していましたが、途中で文系にも興味を持ち、情報学と法学を両方学べるiTLへ。2年次に受けた「情報セキュリティ論」の授業がおもしろかったのでゼミは情報系に進み、サイバーセキュリティに関する研究をしたり、IoTやAIの技術を活用したスマートホームのセキュリティについて調べたり。興味が多岐にわたりすぎて進路を絞れずにいたなか、出会ったのがIBMでした。IBMといえば、近年はセキュリティビジネスへの注力で知られる会社です。事業内容が自分のやりたいことに合致したのに加え、社内学習プログラムが充実しているのも魅力的でした。ここでなら入社後も絶えず新しい知識に触れ、成長しつづけることができるかもしれない。そう思ってIBMを第一志望とし、ゼミでの研究やセキュリティ関連のコンテストへの出場経験などをアピールしたところ、内定を得ることができました。



■ 植松 万理 4年 埼玉県立所沢高等学校出身



■ 長谷川 桂司 4年 私立茨城高等学校(茨城県)出身

国家公務員として、誰もが安全に ネットを使える社会の実現に貢献する

ネット空間にあふれるニセ情報や誹謗中傷が社会問題化する昨今。その状況を改善するために自分にできることを模索したくてiTLを選び、ゼミではサイバー犯罪捜査をテーマに研究を続けてきました。卒業後はインターネットの安全性の担保に貢献できる仕事に就きたいと考えていたものの、民間企業なのか公的機関なのかは決めていなかったんです。そこで民間・公を問わずさまざまな企業や団体の社員・職員の話聞いたところ、「誰一人取り残さない」デジタル化の推進を提唱する行政や自治体に気持ちが傾いていきました。志望先を総務省と地元の茨城県庁に絞り、最終的に総務省に。自分が目標としてきたことを達成するには、国の情報通信政策に関わるのがベストだと判断したからです。今後は国家公務員として人びとのセキュリティ意識の向上に尽力し、すべての国民が安全にインターネットを使える社会の実現をめざします。

01

LINEヤフー株式会社

小林 彩勢

2023年卒業

LINEヤフー



終わることのない『情報の仕組み』と『情報の法学』の道

私はiTLに在学中、プロファイリングに関する適切な規制について個人情報保護法の観点から研究を進めていました。この研究についてゼミでは、手厚い指導や学会発表の機会をいただき、大学生として良い経験をすることができました。また、この会社を志望するきっかけも法律系合同ゼミでヤフー(現LINEヤフー)のDPO(データ・プロテクション・オフィサー)の講義を受けたことでした。その講義でヤフー(現LINEヤフー)がいかに情報の保護と活用を重視しているかを知り、自身の研究を通して学んだことが活かせると考え志望し、入社しました。現在は、WEBマーケティングの内、運用型広告のコンサル業務に従事しています。どのようなデータを活用し、広告に活かすことがユーザーと広告主や代理店

の双方にとってメリットになるかを日々考え、提案に努めています。今後は、業務を通して広告配信技術に関する知識を蓄え、大学で学んだ個人情報保護法等の情報法に関する知識もアップデートしていきたいです。そうすることでデータの保護活用基盤を構築できるような人材となり、ユーザーにとってより良い広告体験をしてもらえることに貢献したいです。

そしてこの業界にいるからこそ、生成AIの勢いをまざまざと感じています。今更ながら、もっとAIの法律や活用について学ばねば良かったと思います。ですが、皆さんにはまだそのチャンスがあります。これから必要とされる知識や技術をiTLでならきっと得られるはずですよ。

02

SCSK株式会社

佐々木 彩音

2023年卒業

SCSK SCSK株式会社



多角的視点で挑む、IT業界でのキャリア形成

学生時代は、ゼミでAI・メタバース・行動経済学・ELSIなどについて幅広く学びました。「AIのバイアス問題を背景にした日本企業のAIガバナンスの在り方」や「テレワークと女性のワークライフバランス」をテーマにした論文も執筆。それぞれのテーマに対して多角的な視点からゼミの仲間と議論する日々でした。

SCSKでは、技術知識だけでなくビジネススキルや語学を何年にも渡って学習し続けていくことができる体制やコンプライアンス・女性の活躍・サステナビリティ等を重視している点に魅力を感じ、入社。現在は、主務としてハイブリッドクラウドやコンテナを扱う部署でインフラエンジニアと

しての技術力向上に努めています。また、私の所属する事業グループでは兼務としてT型人材(専門性と幅広い知識を兼ね備えた人材)輩出を目的とする技術職だけの部署があります。そこでの研究会や勉強会に参加することで、主務以外の情報・知識も吸収しています。自分の専門分野に加えて幅広く事業を俯瞰できる点で、様々な技術やスキル取得に関心を持つiTL生におすすめできます。

今後の目標は、短期的には担当製品の構築資格を増やし、仕事の幅を広げていくことです。また、長期的には技術力や英語力を高めるとともに、iTLで培った多角的な視点を活かして社内外に貢献することを目指しています。

03

一般社団法人 共同通信社

福富 哲平

2023年卒業



幅広い経験から見える、理想のエンジニア像への歩み

講義で基礎を学び、ゼミを通じて専門性を学びました。大学3年次から長期のエンジニアインターンに参加し、実践力をつけるように意識していました。

興味を持ったことはとりあえずやってみようと、広く浅く取り組んでいました。自作サーバー構築、Webアプリ開発、画像認識、機械学習、ネットワーク、セキュリティなど様々な分野を広く浅くやっていました。共同通信では、物理からアプリまでできるということで、経験が活かせるかもしれないと思い入社しました。

スポーツデータから記事作成を行うシステムの開発、記者の方々が作成

した記事をテレビ局やラジオ局などに配信を行うシステムの開発、デジタルコンテンツとして配信された記事を社内から閲覧できるシステムの開発、支社の回線を切り替える業務のための出張、社内にあるサーバーの設置、撤去など幅広く携わっています。様々な業務を経験し、システムの全体像をしっかりと把握して、一人前になれるよう日々取り組んでいます。

業務外でも、ソフトウェア開発に参加したり、資格試験に向けて勉強をしたりして、自身のスキルアップにつなげ、自分の描く理想のエンジニア像に近づいていきたいです。

ITLでは、21名の専任教員と数多くの実務経験豊富な兼任教員によって授業が展開されます。ゼミ(「国際情報演習」)は経験豊かな専任教員が担当します。

情報の仕組み Information Technology

- 飯尾 淳 教授 IIO Jun
- 岡嶋 裕史 教授 OKAJIMA Yushi
- 角田 篤泰 教授 KAKUTA Tokuyasu
- 小花 聖輝 准教授 KOHANA Masaki
- 須藤 修 教授 SUDOH Osamu
- 松崎 和賢 教授 MATSUZAKI Kazutaka
- 松野 良一 教授 MATSUNO Ryoichi
- 村田 雅之 教授 MURATA Masayuki
- 吉田 雅裕 准教授 YOSHIDA Masahiro

情報の法学 Law

- 石井 夏生利 教授 ISHII Kaori
- 岩隈 道洋 教授 IWAKUMA Michihiro
- 大手 英明 特任教授 OHTA Hideaki
- 小向 太郎 教授 KOMUKAI Taro
- 中島 美香 准教授 NAKASHIMA Mika
- 中村 真利子 准教授 NAKAMURA Mariko
- 平野 晋 教授 HIRANO Susumu

グローバル教養 Global

- 斎藤 裕紀恵 教授 SAITO Yukie
- 橋本 健広 教授 HASHIMOTO Takehiro
- 保坂 俊司 教授 HOSAKA Shunji
- 矢島 壮平 准教授 YAJIMA Sohei
- 渡部 春佳 助教 WATANABE Haruka

※2024年4月現在の専任教員の紹介です。教員の構成やゼミの内容は変更になることがあります。



飯尾 淳 教授 IIO Jun

研究分野 ヒューマン・コンピュータ・インタラクション
行動情報分析

担当科目 プログラミングのための数学
プロジェクトマネジメント 等

〈ゼミの内容〉人間とコンピュータのインタラクションや、サイバーワールド及びリアルワールド両面における市民の行動分析等について研究します。コンピュータや情報システムを用いて解決したい社会課題を見つけ、アプリケーションやシステムを実際に製作することで問題解決に挑戦します。必要があれば、システムの構築だけでなくシステム運用に伴う社会規範のあり方やシステムの活用方法についても議論します。演習は各自のテーマに関連する文献の収集と読解から始め、システムのプロトタイプ構築やデータ収集等に進みます。成果を対外的に発表することも応援します。



岡嶋 裕史 教授 OKAJIMA Yushi

研究分野 情報ネットワーク
情報セキュリティ

担当科目 基礎情報学
インターネット概論
インターネット文化とサブカルチャー 等

〈ゼミの内容〉情報システムや情報ネットワークの知見を使って、各種の社会課題の解決に取り組んでいただけます。理論を考える学生も、実装を行う学生も歓迎です。机上で行うケーススタディだけではなく、現実の企業との連携研究も行っています。一例としては、子ども向けプログラミング教育を最適化するための教育パッケージを、実際に子ども向け教室を運営している企業と連携しながら作っていく研究等を実施してきました。その過程で生じるトラブルを克服した経験が、実務を遂行する上で大きな力となるでしょう。積極的に授業に参加し、できるだけ多くのトラブルを経験してください。



角田 篤泰 教授 KAKUTA Tokuyasu

研究分野 法情報学・リーガルテック
人工知能
教育支援システム

担当科目 情報倫理
DX戦略
システムコンサルティング技法 等

〈ゼミの内容〉社会実装を目指してWeb上の様々なシステムの開発やコンテンツの制作を進めます。特に法律や文化芸能などの人文社会学系分野へのIT応用やAI応用を行っています。例えば、裁判ルールプレイ、ダンス振り付け、お化粧アドバイザー、仮想アイドル制作など様々な分野への応用研究がゼミ生によって実施されています。ゼミ活動を通して、システム科学や論理学の知見も学び、各学生の必要に応じて、画像認識、3DMV、シナリオ設計などの技法についても学びます。スパコンを用いたAIによる法令自動作成など世界最新の研究プロジェクトに加わることも可能です。



小花 聖輝 准教授 KOHANA Masaki

研究分野 Webシステム
並列・分散システム
テキストマイニング

担当科目 コンピュータアーキテクチャ
システム開発論
OSとハードウェア 等

〈ゼミの内容〉Webシステムに関する研究をします。日々の生活をより便利にするためのアプリケーションや、様々な背景を持つ訪日外国人に向けたサービス等、幅広いアプリケーションを扱います。演習では、基礎的な技術から最新の技術まで、論文や書籍、技術の標準化に関する資料、プログラムのソースコードまで多岐に渡る文献を調査した上で、実際にアプリケーションを開発し、どのような技術で作成したのか、より良いものにするには何が必要となるのかを議論していきます。



須藤 修 教授 SUDOH Osamu

研究分野 国際情報学
社会情報学
医療情報学
応用経済学

担当科目 先端国際情報学
ブロックチェーンとWeb3 等

〈ゼミの内容〉世界は新たな文明の生成に向けて大きな変動期にあります。その大変動を引き起こす重要な要素としてAIやIoT等の情報通信技術、データの爆発的な生成とその利活用があります。これまでの社会や人間の在り方も大きく変わる可能性が高いといえるでしょう。最先端の情報通信技術の革新や社会制度の刷新について学ぶとともに、それらの考察を踏まえて人間の進化について考えます。同時に全ての参加者が社会をより良い方向にリードできる人材に成長するよう、様々な企業や研究機関と共同プロジェクトを通して新たな学びを行うことを予定しています。



松崎 和賢 教授 MATSUZAKI Kazutaka

研究分野 制御システムセキュリティ
ソフトウェア工学

担当科目 情報セキュリティ論
システムとソフトウェア
システム監査論 等

〈ゼミの内容〉現代社会を取り巻くサイバーセキュリティに関する脅威と対策について、事例を通じて学びます。国内外の事例報告や起訴状等を紐解くことで、地政学、時期、分野等によるサイバー攻撃の違いや変化を理解します。こうした変化に対して、法制度の整備やシステムのあり方の把握を目指します。演習では、課題資料を事前に読んで、その内容を要約し、演習の場で発表して議論を行います。課題資料としては、事例に基づく公開資料等を用いる予定です。また、具体的な脅威と対策を体感できるテストベッド環境を共同構築していくことも予定しています。



松野 良一 教授 MATSUNO Ryoichi

研究分野 ジャーナリズム論
ルポルターージュ論
ドキュメンタリー論
戦争と報道
生命倫理と報道

担当科目 ジャーナリズム論
ドキュメンタリー論 等

〈ゼミの内容〉地域に根ざした映像コンテンツの制作・発信が、どのような影響力を持つのか、そして、制作者の能力をどう開発するのかを研究します。ゼミでは実際に、スマホやカメラを使って、インバウンド観光用ビデオ、ドキュメンタリー、スタジオを使った番組等の様々な映像作品を制作します。ロケ地は、国内は、首都圏及び北海道、福井県、沖縄県、海外は、台湾とベトナム等を予定しています。アジアの著名大学との交流やプレゼンテーション等も行います。最終的に、長編のドキュメンタリー作品を制作し、それに付随する卒業論文を作成します。



村田 雅之 教授 MURATA Masayuki

研究分野 社会心理学
メディアリテラシー
教育デザイン

担当科目 メディア論
情報社会学
心理学 等

〈ゼミの内容〉デジタル社会の諸問題を、主に「社会心理学」「教育デザイン」の視点から研究します。現代社会において、「こころ」や「メディア」に関わる課題を見出すことは難しくないでしょう。しかし、テーマを発見し、関心を絞り込み、何が語られてきたのか把握し、まとめあげる手法を身につけるには、段階を踏んだ訓練が必要です。演習では、文献報告と討論を輪講形式で行う段階から、調査を企画し、文献研究、データ収集、分析、報告、可能ならコンテンツ化までを行う予定です。様々な要因が複雑に絡み合った問題を解決するために、複数の学問領域に越境する姿勢も修得してほしいと考えています。



吉田 雅裕 准教授 YOSHIDA Masahiro

研究分野 IoT
AI

担当科目 データサイエンス基礎
情報ネットワーク論
データマイニングとAI 等

〈ゼミの内容〉IoTに関する研究を行います。自動車やドローン等の「自動運転」に使われているセンサ、モバイル通信、データサイエンス、AI等を中心に、最先端の「情報の仕組み」に関する技術を習得します。そして、ユニークな発想のもとで「未来をより良くする成果物」を制作します。また、近年の社会問題や国際情勢を踏まえて、自分の成果物が社会に与える影響力を把握し対応する能力を養成します。演習では、数人ごとにチームを組み、協力して1つの成果物を制作していきます。自動運転するラジコンや、好きなジャンルのゲームAI等、自分たちが作りたいものをイメージし、試行錯誤しながら作り上げていきましょう。



石井 夏生利 教授 ISHII Kaori

研究分野
情報法
プライバシー・個人情報保護法

担当科目
法学概論
情報プライバシー権法
ICTビジネスと公共政策 等

〈ゼミの内容〉 プライバシー・個人情報保護法を中心とした情報の取り扱いを巡る法的諸問題について研究を行います。
プライバシー・個人情報保護法は、いわゆる六法に加え、知的財産権法、消費者契約法、景品等表示法、独占禁止法等、他の法分野とも関連性を持っています。このような他の法分野の理解を含め、広い視野からの分析能力を養うことを目指します。
演習では、報道等で話題となる様々な事案の分析を通じた論点発見、裁判例調査、現行法制度の課題解決策の検討等に取り組みます。資料は、国内外の裁判例、学術論文、政府の政策文書等を用いる予定です。



岩隈 道洋 教授 IWAKUMA Michihiro

研究分野
公法
情報法
宗教法
比較法学

担当科目
情報と憲法
法情報学
情報と国家安全保障 等

〈ゼミの内容〉 国家と国民、そして国家と国家の関係を取り扱う公法分野(憲法・行政法・国際法)を中心に、情報法制その他の法律問題を多角的に検討します。
最初は法学の基礎力を養成するために、民刑事の分野も含めた基礎概念と法的思考の習得に力を入れます。並行して、外国の法文化や、情報技術の社会的・法的な特性も学びます。ミニ講義と文献講読から始めますが、できるだけ早い段階で、各自が立てた課題の報告と、全員でのディスカッションの形式に移行します。
希望があれば、公務員やロースクール等の受験も支援したいと思います。



大手 英明 特任教授 OHTE Hideaki

研究分野
情報政策
デジタル社会の健全な発展を促すルール形成の在り方

担当科目
情報政策概論
情報政策ワークショップ
国際規約と国際標準化団体 等

〈経歴紹介〉
2005年総務省へ入省。
総務省総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター参事官補佐、総務省情報流通行政局総務課統括補佐等を経て、ITLに就任。
〈メッセージ〉
各科目において、情報分野における国の施策・政策、そしてそれらの立案の方法・プロセス等に関する講話・アドバイスをします。ITLの卒業生から、政策と向き合いつつ、今後のデジタル社会の発展をリードしていく方が出てくることを期待しています。



小向 太郎 教授 KOMUKAI Taro

研究分野
情報法
情報通信法

担当科目
情報法
情報通信法
企業と情報法 等

〈ゼミの内容〉 インターネットや携帯端末の普及は、生活を便利にする一方で、新しい深刻な問題も生み出しています。例えば、サイバー攻撃、詐欺などの犯罪、SNSの炎上、著作権侵害、個人情報の悪用、フェイクニュースの氾濫などです。こうした問題がどうして生じるのか、どうして取り締まられないのか、法的にはどう位置付けられているのか、問題を解決するためにどのような取り組みがされているのかなど、疑問に思っている人も多いのではないのでしょうか。演習では、上記のような課題について、ICTの技術的な背景や利用の実態も踏まえて、調査分析とディスカッションを行います。これらを通じて、論理的に問題を検討する力をつけることを目指します。



中島 美香 准教授 NAKASHIMA Mika

研究分野
民事法
情報法(競争政策)

担当科目
民事法(総則と情報契約法)
競争法(情報競争法)
消費者保護法 等

〈ゼミの内容〉 デジタル・プラットフォーム企業*の新しい技術やビジネスの進展に伴う法制度上の課題について研究します。我が国におけるデジタル・プラットフォーム企業の公正な競争・健全なイノベーションのあり方及び消費者保護のあり方を検討します。研究にあたっては、民事法及び競争法の法解釈に基づく思考力の養成を基礎とし、最新の政策動向なども視野に入れて、実務上の課題を解決できる人材の育成を目指します。
*米国のGAFA、中国のBATHなど。



中村 真利子 准教授 NAKAMURA Mariko

研究分野
刑事法

担当科目
法学概論
刑事法(概論)
刑事法(サイバー犯罪の刑事規制) 等

〈ゼミの内容〉 サイバー犯罪をめぐる法整備と課題について研究します。
サイバー犯罪とは何か。これを適正に処罰するためにはどのような手続を経なければならぬか。近年の法改正や具体的な事案をもとに、各自が具体的なテーマを設定して調査研究し、演習で発表と議論の場を設けます。
調査研究は、最高裁判所や下級審の判断について紹介・解説する判例研究や、諸外国の制度との比較検討を行う比較法研究が中心です。このような研究を通じて、グローバル化社会において生じ得る様々な刑事法上の問題について自ら考える力を身につけることを目指します。



平野 晋 教授 HIRANO Susumu

研究分野
アメリカ法
製造物責任法

担当科目
AI・ロボット法
法と経済学 等

〈ゼミの内容〉 AI・ロボット法に関連する諸課題と解決策について研究します。
研究にあたっては、法学の知識と思考力の養成を基本としつつも、AIやロボットに関連する基本的な仕組みと技術の理解や、法律以外の社会規範や倫理等の理解も深めて、課題と解決策の案を多面的に捉える能力の養成も目指します。派生型トロッコ問題がその一例です。
演習では、課題となる資料を事前に読んで、その内容の要約を行い、これを演習の場にて発表して、皆で議論します。課題となる資料としては、日本及び米国の裁判例、並びに日本及び外国の有識者会議の公開資料等の政策関連文献や論文等を扱う予定です。



斎藤 裕紀恵 教授 SAITO Yukie

研究分野
CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)
言語教育政策
語学論
EdTech

担当科目
統合英語
ICT留学
国際ICTインターンシップ 等

〈ゼミの内容〉 現在、ITの発展は教育の分野でも影響を与え、MOOC(Massive Open Online Course)やe-learning等、様々なEdTech(Education×Technology)教育と技術の融合が進んでいます。本演習ではe-learningやアプリケーション等、英語教育・英語学習に取り入れられているEdTechの実例と効果と影響、現在抱える問題とその解決策、将来性について研究を行います。演習では、EdTechの実例や効果と影響に関する先行研究(英語文献を含む)の調査や、自らのEdTech×英語の体験調査を通してその効果や問題点についての発表も行います。また、学際的な視点からEdTechを構成する「情報の仕組み」、EdTechを取り巻く「情報の法学」についても学びます。



橋本 健広 教授 HASHIMOTO Takehiro

研究分野
イギリス文学
CALL
英語教育学

担当科目
情報英語
情報と言語
Practical English for Informatics 等

〈ゼミの内容〉 主にイギリス文学を題材とし、読解と計量分析を行います。
文学全般への理解と素養をもとに、テキストを選んで精読し、内容を理解します。その上で、文学のデータ分析に挑戦し、データから得られる知見と読解や関連情報から得られた知見を融合する文学研究の方法を学びます。
演習では、イギリス文学概説及び簡単なテキスト読解と文学をデータ分析する手法を主に学びます。課題を前もって読んで発表し議論する形式を取ります。データ分析に必要な情報の基礎や情報演習、著作権についても取り上げる予定です。



保坂 俊司 教授 HOSAKA Shunji

研究分野
インド哲学
比較思想
比較宗教学・比較文明学

担当科目
宗教学
宗教とメディア 等

〈ゼミの内容〉 「宗教と情報文明」というテーマで、新しい視点から宗教存在の重要性を体系的に検討します。
日本人は宗教に関して良いイメージを持たない傾向にありますが、AIを基礎とするグローバル時代において宗教が果たす役割は、従来以上に重要となっています。本ゼミでは、世界の主要な宗教に関して「宗教は文明のプロトタイプ(祖型)」をキーワードとして、それらの基礎知識を総合的に習得することを目指します。なぜなら、世界で活躍出来る一流の知識人には、高度な教養が不可欠ですが、その核を為すのがいわゆる宗教に関する知識だからです。



矢島 壮平 准教授 YAJIMA Sohei

研究分野
哲学
倫理学

担当科目
哲学
論理学 等

〈ゼミの内容〉 情報について、哲学・倫理学の立場から根源的に考察します。
研究対象となりうる問いは例えば、そもそも情報とは何か、ICTが引き起こす倫理的問題をどのように解決できるか、情報は倫理においてどのような役割を果たすか、等です。とはいえ、問口はできるだけ広く保ち、各自の関心に応じて、多少なりとも情報と関係する哲学・倫理学的問題、または逆に、多少なりとも哲学・倫理学と関係する情報技術的課題を排除しません。
主に訓練する研究手法は、日本語・外国語文献の読解及び論理的文章の作成・発表ですが、その他の手法(情報処理技術等)を補足的に用いることも歓迎します。



渡部 春佳 助教 WATANABE Haruka

研究分野
社会情報学
文化政策論

担当科目
国際文化論
国際関係論
情報とガバナンス 等

〈ゼミの内容〉 情報が溢れ、情報の真偽を判断したり、バランスの取れた情報を得たりすることが難しくなる中で、民主的な「意思決定」を実現しようとする時には、公共領域の綿密なデザインがますます求められています。
社会的な課題解決に関わる公共政策はどのようなプロセスを経て実現されるべきなのか、政府・公的機関やメディア、プラットフォームが信頼を確保し、人々に対する「アカウンタビリティ」をどう実現していくかといった問題に取り組んでいきます。



ITL

INFORMATION TECHNOLOGY & LAW
ICHIGAYA TAMACHI LINK

建学の精神を受け継ぎ、時代と人の架け橋として誕生した市ヶ谷田町キャンパスは“Ichigaya Tamachi Link = iTL”という使命をもって、さまざまな人と社会、知恵と情報をつなげる「知の拠点」へと進化していきます。

市ヶ谷田町キャンパス紹介Movie




中央大学国際情報学部
都心で学べる！
市ヶ谷田町キャンパス紹介! 4:55

2019年4月に新装した綺麗なキャンパスをご覧ください。




コミュニケーションホール

スタジオ

Ichigaya Tamachi Link




中教室

エントランスホール













受付

顔認証システム

エントランスホール

コミュニケーションホール

C's SHOP(売店)

オープンスペース

エントランスホール

ワークステーション

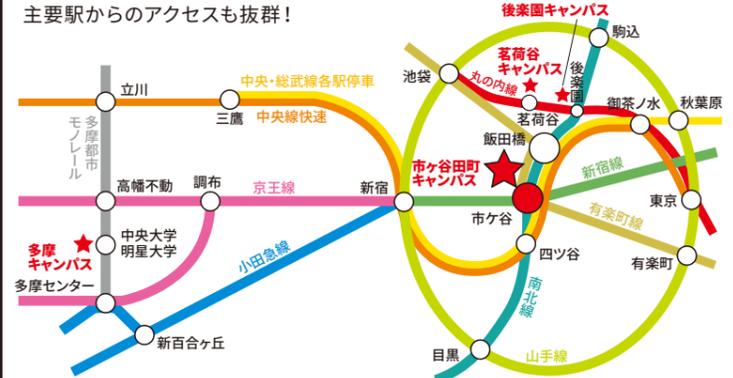
ラーニングcommons

小教室

テラス

国際情報学部 市ヶ谷田町キャンパスへのアクセス

主要駅からのアクセスも抜群!



後楽園キャンパス
茗荷谷
飯田橋
市ヶ谷田町キャンパス
市ヶ谷
四ツ谷
目黒
山手線
有楽町線
有楽町
丸の内線
丸の内
池袋
有楽町線
御茶ノ水
秋葉原
有楽町線
有楽町
有楽町線
有楽町
有楽町線
有楽町

市ヶ谷駅からiTLまでの行き方

- 東京メトロ南北線/有楽町線
赤羽岩淵方面/和光市方面のエスカレーターを上り改札を出る。6番出口正面
- 都営地下鉄新宿線
新宿方面階段を上り改札を出る。1番出口より地上へ上がり右に回って橋を渡る。大通りを渡って右に進む。地上出口より徒歩5分。(交通系ICカードを使用すると、東京メトロ6番出口から出られます)
- JR中央・総武線各駅停車
(快速は停車しません)
新宿方面階段を上り改札を出る。地上へ上がり左にある橋を渡る。大通りを渡って右に進む。地上出口より徒歩5分。



2025年度入学者選抜方法

入試方式		試験科目	
学部別選抜	一般方式	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語(英語) ●国語(近代以降の文章) 	
	英語外部試験 利用方式	個別試験	●国語(近代以降の文章)
		英語資格・検定試験	出願期間初日から遡って2年以内に実施された、次のいずれかの要件を満たすことを出願資格とします。また、英語資格・検定試験のスコアの高低に応じ、得点換算します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. TOEFL iBT® (Home Edition、Paper Editionを除く) 54以上(MyBestスコアは対象外) 2. 実用英語技能検定(英検S-CBT、S-Interview含む) CSE2.0 スコア2067以上(受験級は準1級以上) 3. TOEIC®L&R及びTOEIC®S&W(除IPテスト) 合計742以上 4. IELTS(アカデミック・モジュールに限る。CDI含む、IELTS Onlineを除く) 4.5以上 5. TEAP(4技能パターン) 250以上※ 6. GTEC(CBTタイプ、検定版Advancedタイプ) 1050以上 ※各受験回の合計点のみを有効とする。複数回受験した場合でも、各技能の最高点の合算は行わない。
大学入学共通テスト併用方式	大学入学共通テスト	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語(英語) ●国語(近代以降の文章)、地歴公民(「地理総合、地理探究」、「歴史総合、日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」、「地理総合/歴史総合/公共」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」)、数学(「数学I、数学A」、「数学II、数学B、数学C」)、理科(「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)、情報から1科目選択 	
大学入学 共通テスト 利用選抜 (単独方式)	3教科型 (前期選考/後期選考)	個別試験	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語(英語) ●国語(近代以降の文章) ●地歴公民(「地理総合、地理探究」、「歴史総合、日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」、「地理総合/歴史総合/公共」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」)、数学(「数学I、数学A」、「数学II、数学B、数学C」)、理科(「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)、情報から1科目選択
	4教科型 (前期選考のみ)	個別試験	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語(英語) ●国語(近代以降の文章) ●地歴公民(「地理総合、地理探究」、「歴史総合、日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」、「地理総合/歴史総合/公共」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」)、理科(「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目選択 ●数学(「数学I、数学A」、「数学II、数学B、数学C」)、情報から1科目選択

※今後変更が生じる場合がありますので、出願にあたっては、入学試験要項を必ず確認してください。

iTL ガイダンス ※開催日・イベント内容についてはiTL WEBサイトでご確認ください。

ガイダンスでは国際情報学部の魅力をお伝えします。ガイダンス後には、個別相談も実施します。

プログラム①【学部ガイダンス】 国際情報学部とは？ iTLとは？ 国際情報学部のことお話しします。

プログラム②【先輩たちが語るパネルディスカッション】 iTLを選んだ理由、将来のことなど先輩たちが各自の視点でお話しします。

プログラム③【個別相談】 まだまだ聞きたいことがある方には学生・教職員が質問にお答えします。



50秒で分かる 国際情報学部

iTLとは... 「中央大学 国際情報学部」は、なぜ「iTL」と呼ばれるのか？

なぜ 国際情報学部が iTL と呼ばれるのか



国際情報学部公式X

中央大学国際情報学部 (iTL)

情報の仕組み 情報の政治




学部長挨拶

生成AIのような、これまでのAIよりも「高度なAIシステム」に対しては規制が必要である、と先進7か国(G7ジー・セブン)は表明しております。生成AIがこれまでよりも「高度なAIシステム」である理由の一つは、その「創造性」にあります。すなわち生成AIは、既存のAIとは比べ物にならない程に大量の情報を学んだ後に、新たな情報を「生成—generate—する」こと、言い換えればその「創造性」ゆえに「高度なAIシステム」と呼ばれます。

生成AIが高度であるもう一つの理由は、その「汎用性」にあります。問いを書き込むと答えの文章を瞬時に生成・表示してくれるAIが生成AIの代表例ですが、他にも画像、動画、音声、音楽等々の様々なコンテンツを生み出す生成AIも広がっています。囲碁や将棋のような特化された目的にしか利用できなかった「特化型AI」と異なり、生成AIは多様な目的に利用できる汎用性ゆえに高度なのです。

以上のような「創造性」と「汎用性」を兼ね備える高度なAIシステムは、これまで以上にヒトの能力に近づいているので、「AGIエイ・ジー・アイ」と呼ばれる、ヒトと同等以上の能力を有する「汎用AI」—Artificial General Intelligence—の出現も遠い未来ではなく、将来の社会の混乱を懸念する声も聞かれ始めました。現在の生成AIについてさえも、例えば首相や大統領の偽動画を流布して有権者を操作するような民主主義の危機が指摘され、実在の人物そっくりの声音を用いて人々を騙す特殊詐欺への悪用も懸念されているので、更に進化した「汎用AI」が実現したら、人類への悪影響は測りしれないものとなるでしょう。

以上のような高度なAIシステムの諸課題を解決する為には、まずはAIの仕組みを理解しなければなりません、それだけでは不十分です。AIの欠点や危険性を抑え込む為には、法律等のルールによって規制する必要も出てきますから、法律の知識も必要になるのです。

幸い皆さんは、「IT:情報の仕組み」と「L:法学」の双方を、私たちが知る限り唯一無二のiTLで学ぶことによって、課題解決能力を修得できます。加えて「グローバル教養」も身に付けられれば、高度なAIシステムに続いて必ず現れるであろう更なる新興技術—例えば「汎用AI」—が世界を変革させようとしても、時代の変化に対応できる普遍的な考え方を身に付けることができます。是非ともiTLの教育研究を通じて、様々な新興技術が生む諸課題を治癒できる有為な人材に育て下さい。

国際情報学部長 **平野 晋**
HIRANO Susumu